

# 高等学校国語教科書（平成十七年度）教材一覧

## ——現代文編——

久保田 裕 子

### はじめに——新学習指導要領の領域構成

新学習指導要領は、平成十年（一九九八）年に幼稚園と小学校、中学校の改訂が、平成十一（一九九九）年に高等学校と盲・聾・養護学校の改訂が告示された。幼稚園では平成十二（二〇〇〇）年度、小・中学校では平成十四（二〇〇二）年度から全面的に実施され、高等学校では一年遅れて平成十五（二〇〇三）年度入学生から段階的に実施され、平成十七（二〇〇五）年度から全ての学年において移行措置が完了する。

今回の新学習指導要領の実施に伴い、高等学校では「国語Ⅰ」「国語Ⅱ」「国語表現」「現代文」「古典」から、「国語表現Ⅰ」「国語表現Ⅱ」「国語総合」「現代文」「古典」「古典講読」へと科目区分の名称が変更され、それに伴って各教科書に収録された教材内容も大きく改編された。筆者は「高

等学校国語教科書（平成十五年～十六年度）教材一覧」（福岡教育大学紀要）第54号 第一分冊 平成十七・二二で「国語総合（現代文編）」「現代文」それぞれの教科書に収録された作品について、「国語表現」については目次の全項目の一覧表を作成した。その後「現代文」については、平成十七（二〇〇五）年度を使用開始年度とする教科書が刊行されたため、小論において「現代文」の教材リストを作成した。先に挙げた「高等学校国語教科書（平成十五年～十六年度）教材一覧」と合わせて参照頂きたい。

以下に掲げた表においては、各教科書の「教科書名（出版社）」「単元名」「教材名」「筆者名」「著作者名」「教科書記号・番号」を挙げた。表記や記号は各教科書の記載にそのまま従った。

なお小論の作成に当たっては、財団法人教科書研究センター附属教科書図書館において調査をさせて頂いた。記して感謝申し上げたい。

高等学校国語教科書（平成十七年度）教材一覽——現代文編——				
教科書名（出版社）	教 材 名	筆 者 名	著 者 名	教科書記号・番号
単元名				
現代文2（東京書籍）			小町谷照彦ほか	現文022
目次				
一 評論①	垂直のファッション、水平のファッション テクノロジーと人間	鷺田清一 黒崎政男		
二 小説①	鞆 俘虜記	安部公房 大岡昇平		
三 評論②	セレンディピティという方法 〈歴史〉という装置	港 千尋 西谷 修		
四 詩	逃げ水 わがひとに与ふる哀歌 帰途 そゞろあるき	島崎藤村 伊藤静雄 田村隆一 ランボオ／永井荷風訳		
五 随想	砂漠と孤独 考える蜚蠊	今福龍太 奥本大三郎		

六	評論 ③	自然と人間 言語と記号	村上陽一郎 丸山圭三郎
七	小説 ②	舞姫	森 鷗外
八	評論 ④	俳句の表現、短歌の表現 創造の否定と探究——引用	坪内稔典 浅沼圭司
九	小説 ③	裸足の拝観者 砂の本	多和田葉子 ボルヘス／篠田一士訳
十	評論 ⑤	文化のダイナミズム——個人の誕生 身体の二重性	山崎正和 中村雄二郎
	実用的な文章を書く	○言葉で説明する 事物へのアプローチ 「小論文のかたち」	青木三郎
	附録	近代日本の文学と思想 日本近代現代文学史年表 常用漢字表 付表 「外来語の表記」に用いる仮名と符号	

精選現代文（教育出版）			
目次			
1 小説（一） — 大正から昭和へ	暗夜行路 序詞 檸檬 キャラメル工場から	志賀直哉 梶井基次郎 佐多稲子	井口時男・長沼行太郎ほか  現文023
2 評論（一） — 現代社会の課題	「である」「ことと」「する」「こと」 技術と人間の倫理 ◆表現の扉1 意見文を書こう	丸山真男 加藤尚武	
3 詩 — 近代詩から 現代詩へ	樹下の二人 雨 落下傘 死んだ男 二十億光年の孤独	高村光太郎 西脇順三郎 金子光晴 鮎川信夫 谷川俊太郎	
4 随筆（一） — 人を見つめる	同情トイフコト 確認されない死のなかで	大江健三郎 石原吉郎	



9 小説(三)

— 明治の文学

○調査報告2 地域イメージと言語イメージ  
○調査報告3 共通語との心理的距離

舞姫

森 鷗外

10 評論(四)

— 近代の批判

私の個人主義

夏目漱石  
北村透谷

漫罵

11 翻訳文学

— 運命と人間

藤野先生

魯迅／竹内好訳

◆読みを深めるために(参考)『呐喊』自序(抄)

魯迅／竹内好訳

シジフォスの神話

カミュ／矢内原伊作訳

12 近代文学の

思想と文体

— 多様な試み

あひびき

ツルゲーネフ／二葉亭四迷訳

我は女なりけるものを

樋口一葉

藤村詩集 序

島崎藤村

「それから」について

武者小路実篤

日輪

横光利一

海に生くる人々

葉山嘉樹

暗い絵

野間 宏

死霊 自序

埴谷雄高

★付録	<p>情報の探し方          学校系統図          義務教育の変遷          物価の推移          近代文学史年表</p>			
現代文2 (大修館書店)			北原保雄ほか	現文024
目次				
1 随想	<p>生きていくための教養          都市に秘められている自然</p>	<p>安藤忠雄          加藤幸子</p>		
2 評論 (一)	<p>「イフ」的思考のすすめ          重ね合わせの理解と発見的理解          地図の言語と東西南北</p>	<p>塩野七生          山鳥 重          樋口 覚</p>		
3 小説 (一)	<p>離さない          檸檬          ＊人物の生き方やその表現の仕方など          について話し合う</p>	<p>川上弘美          梶井基次郎</p>		
4 詩	<p>小諸なる古城のほとり          寂しき春          遺伝</p>	<p>島崎藤村          室生犀星          萩原朔太郎</p>		

9	8	7	6	5
日本語	評論 (三)	さまざまな文章	小説 (二)	評論 (二)
<p>姿——日本のレトリック ニュアンスの文法</p>	<p>へ顔へを差しだすということ 居住空間における日本的なもの 無常ということ</p>	<p>洗う あの日のキリマンジェロ 一葉日記 福翁自伝 *関連する文章を読んだり創作的な活動を行ったりする</p>	<p>赤西蠣太 俘虜記</p>	<p>のちのおもひに 死んだ男 ゆらぐ科学のリアリティー 文明観を根底から見直そう 体で味わう動物と情報を味わう人間 *書き手の考えやその展開の仕方について自分の意見を書く</p>
<p>尼ヶ崎彬 中村 明</p>	<p>鷺田清一 高階秀爾 小林秀雄</p>	<p>別役 実 高樹のぶ子 樋口一葉 福沢諭吉</p>	<p>志賀直哉 大岡昇平</p>	<p>立原道造 鮎川信夫 黒崎政男 安田喜憲 伏木 亨</p>



10	小説(三)	* 自分で設定した課題を探索し、その 成果を報告する	空飛ぶ男 舞姫	安部公房 森 鷗外	中島国彦ほか	現文025
11	短歌・俳句	折々のうた				
12	評論(四)	球体のダイナミズム 「である」ことと「する」こと 漫罵	大岡 信 黒井千次 丸山真男 北村透谷			
付録		日本近代文学史年表				
精選現代文2(明治書院)						
目次						
①	随想(1)	遠近法の錯覚 多言語の網		安野光雅 多和田葉子		
②	小説(1)	檸檬 頭ならびに腹		梶井基次郎 横光利一		
③	評論(1)	釣りのハイパー——セミオティクス エコロジーのミューズを求めて		中沢新一 今福龍太		

④ 詩

⑤ 様々な文章

⑥ 評論 (2)

⑦ 小説 (2)

⑧ 短歌と俳句

⑨ 評論 (3)

天気・雨  
くらげの唄  
用意  
如来の右手

みづの上日記  
水軍の海  
屋久島

離見の見  
夢の体験  
メディアの在り方

へ私」という演算  
耳の塔

緋の石榴 (短歌十五首)

秋の暮 (俳句十五句)

境界についての思考

西脇順三郎  
金子光晴  
石垣りん  
高橋順子

樋口一葉  
高田 宏  
湯本貴和

鈴木忠志  
樫木野衣  
大沢真幸

保坂和志  
村田喜代子

葛原妙子・斎藤史・  
岡井隆・高野公彦・

永田和宏  
村上鬼城・松本たかし・  
西東三鬼・橋本多佳子・

金子兜太

宇野邦一

精選現代文(明治書院)			中島国彦ほか	現文026
目次				
前編				
① 随想	<p>永遠の宿題      なぜ私は私なのか  学ぶとはどういうことか  読書家・読書人になれない者の読書論</p>	森 毅 安藤忠雄 大岡 信		
② 小説 (1)	<p>山月記  城の崎にて</p>	中島 敦 志賀直哉		
③ 評論 (1)	<p>水のない泳ぎ</p>	前田英樹		
⑩ 随想 (2)	<p>群衆の顔</p>	港 千尋		
⑪ 小説 (3)	<p>誕生日について  身体という受動性</p>	堀江敏幸 細見和之		
⑫ 評論 (4)	<p>舞姫  想像的なものとしての翻訳  現代日本の開化</p>	森 鷗外 酒井直樹 夏目漱石		
付録	<p>日本近・現代文学史年表  語句索引</p>			

④ 詩歌	グローバリゼーションの光と影	小熊英二
小景異情	室生犀星	
永訣の朝	宮沢賢治	
あけがたには	藤井貞和	
葛の花（短歌十二首）	北原白秋・釈迺空・葛原妙子・塚本邦雄	
雲の峰（俳句十二句）	正岡子規・河東碧梧桐・石田波郷・細見綾子	
⑤ 評論（2）	科学と世界観	村上陽一郎
⑥ 小説（2）	地図の想像力	若林幹夫
こころ	夏目漱石	
新盆	増田みず子	
⑦ 評論（3）	精神としての身体	市川 浩
「である」ことと「する」こと	丸山真男	
⑧ 様々な文章	ベースボール	正岡子規
みづの上日記	樋口一葉	
蟻地獄	洪沢龍彦	
① 後編 随想	危険な共生	栗原 康

② 小説 (1)	孤独の必然性	小原 信
③ 評論 (1)	檸檬 笛の音	梶井基次郎 島尾敏雄
④ 詩歌	他者の声 実在の声 釣りのハイパー・セミオティクス 風船乗りの夢 生れた子に 石を蹴る 少年の日 (短歌十二首)	野矢茂樹 中沢新一
⑤ 評論 (2)	青い山 (俳句十二句)	萩原朔太郎 山本太郎 平田俊子 近藤芳美・岡井隆・ 春日井建・河野裕子 村上鬼城・川端茅舎・ 種田山頭火・三橋鷹女
⑥ 小説 (2)	視線の屈折 都市の欲望	西村清和 内田隆三
⑦ 評論 (3)	舞姫	森 鷗外
付録	現代日本の開化	夏目漱石
日本近・現代文学史年表		

新選現代文(右文書院)				
1	自己の確立	人の還る場所 弱者生存	五木寛之 森 毅	会田貞夫ほか  現文027
2	小説 (1)	名人伝 ナイン	中島 敦 井上ひさし	
3	随筆・随想 (1)	空からの民俗学 そもそも歳をとるとはどういうことか	宮本常一 養老孟司	
4	日本人の心情	日本人の心情 鑑賞折々の秀句 月夜の晩に、拾ったボタンは 中原中也	山折哲雄 能村登四郎 柳田邦男	
5	評論・論説 (1)	東西／南北考 沖縄の時間と空間	赤坂憲雄 谷川健一	
6	小説 (2)	ピアノ 普請中	芥川龍之介 森 鷗外	
7	随筆・随想 (2)	美は真に優先する スポーツを考える	河竹登志夫 多木浩二	

8	評論・論説 (2)	オスとメスⅡ性の不思議 へほんとうの自分へのつくり方	長谷川真理子 榎本博明		
9	小説 (3)	草枕 生まれ出づる悩み	夏目漱石 有島武郎		
10	随想・日記	北国空 富士日記「言語活動教材」 〔参考〕解説	泉 鏡花 武田百合子 水上 勉		
11	実用的な文章	国語の「超」勉強法 仕事文の書き方 日本文学関係年表 常用漢字表	野口悠紀雄 高橋昭男		
付録					
展望現代文(筑摩書房)				秋葉康浩・安藤宏ほか	
目次					現文028
◆評論◎一		生命世界のオディッセイ 言語から文章へ	開高 健 谷川俊太郎		
◆小説◎一		神馬 おぎん	竹西寛子 芥川龍之介		

---

◆評論◎二

◆随想◎一

◆小説◎二

◆評論◎三

◆詩論・俳論

◆随想◎二

◆評論◎四

◆小説◎三

---

なぜ悪いことをしてもへよいのか  
地図の想像力

帽子にパンツ  
白木の芸

舞姫

「舞姫」と近代小説の誕生

ファンタジー・ワールドの誕生  
ファッションというへ鏡へ

空と風と星と詩

俳句の宇宙

チャンピオンの定義

清光館哀史

言い忘れたことが忘れられないということ  
科学／技術と生活空間

魂込め  
寝顔

---

永井 均  
若林幹夫

中沢 けい  
白洲 正子

森 鷗外

今福龍太  
鷺田清一

茨木のり子  
長谷川 權

大江健三郎

柳田国男

加藤典洋  
村上陽一郎

目取真 俊  
永井荷風

---



◆評論◎五

◆実用の文章

◆付録

車座社会に生きる日本人  
貨幣論

説明文  
レシピ  
定義文

重要ターム集  
近現代文学史年表  
常用漢字表／付表

大岡 信  
岩井克人

(くぼた ゆうこ・本学助教授)